

1. 前報においては、タイトスカートのダーツを決定するにあたってウェスト線をもとにして決める Kunick 氏法により、ウェスト線のダーツとなる部分の縫製前の形を、前々報において報告した曲線上に設定するダーツの作図法を応用、解析した。しかし、この方法では、ダーツの方向および設定位置の選定についてはなお問題があるが、ダーツ量については設定位置に適した量が求められた。

ダーツ本来の目的からすれば、出来上り後の位置（美しく見える）を考えにいれ、ウェストおよびヒップ間のよりふくらんでいる適当な部分にダーツの先端がいくようにしてダーツ量を決定するのが合理的である。

本報ではヒップ線の長さをウェスト線の長さにまで、その“ふくらみ”に応じてダーツにより縮少するためにダーツ量の配分についての予備知識をうる研究を行なった。

2. 予め被験者のウェスト、ヒップ間の形態を調べ、“ふくらみ”の大きい点を決め、Kunick 氏法とは反対の方法を用い、ダーツ量を決定する。

3. 形態の調査結果から従来のような横断面線をもととする二次元のみの結果からダーツ量を決定するのよいが、縦断面線の結果（ふくらみ）を考えにいれた三次元の考え方からするのが合理的である。

B-101 ダーツに関する研究（第7報）
タイトスカートのダーツについての知見（その2）

高知女大家政 市川 一夫
○村田 菊子